



左近通り



江戸川区環境部水とみどりの課

区民の皆さまが夏場に少しでも快適にお出かけができるよう「えどがわ“ひと涼み”処」につながる、街路樹や緑道などの木陰をあらわした、木陰マップを作成しました。

本マップ内にはみどりの役割や歴史、街路樹の樹種の紹介も記載しています。

「えどがわ“ひと涼み”処」で涼みながら、ぜひ本マップをお読みください。

身近なみどりに目を向けることで、新たな景色が見えてくるのではないのでしょうか。

木陰を作る緑との距離が縮まり「もっと知りたい」「お世話をしたい」という気持ちが芽生えたら、ぜひボランティア活動にご協力ください。

一緒に「ゆたかな心 地にみどり」を次の世代につないでいきましょう。

- 参考図書：
- 「猛暑に対する街なかでの対応方策について」(環境省 2013 年)
<https://www.env.go.jp/press/16924.html>
 - 「まちなかの暑さ対策ガイドライン」(環境省 2023 年)
https://www.wbgt.env.go.jp/doc_city_guideline.php
 - 「～ヒートアイランド現象の緩和をめざして～緑による建築・街区空間の熱環境改善効果について」(国土交通省 2005 年)
<https://www.mlit.go.jp/kisha/kisha05/04/040812/01.pdf>
 - 夏の暑さ対策の手引き」(東京都 2016 年)
https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/climate/heat_island/regulation
 - 「東京におけるヒートアイランドの実態と暑熱対策について」(東京都環境科学研究所 2014 年)
 - 日本の樹木 山と溪谷社 (林 孝栄 2011 年)
 - 道路緑地の設計・施工・維持管理 財団法人経済調査会 (中島 宏 2012 年)

発行
江戸川区環境部水とみどりの課
〒132-8501 東京都江戸川区中央一丁目 4 番 1 号
公園利活用係 電話：03-5662-8393
水とみどりの課公式Instagram：@edogawamidori
HP：https://www.city.edogawa.tokyo.jp



「えどがわ“ひと涼み”処」



冷房設備のある区の施設などを、夏季期間中は、「えどがわ“ひと涼み”処(どころ)」と名付けており、気軽に暑さを一時しのげる場所として利用できます(各施設の開館時間内に限ります)。

熱中症予防には、外を歩いているときに少し立ち寄って、身体の熱をとることが効果的です。

区内全域で区施設 81 か所・その他 5 か所が展開されており、これらの施設は、熱中症特別警戒アラートの発表に応じて、クーリングシェルターにも指定されています。

施設の入口には、目印としてポスターが掲示されています。また、自販機や給水機が備わっている場合があります(一部の施設を除く)。

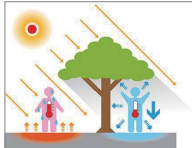


「熱中症」とは

高温多湿などの環境下で、体内の水分や塩分のバランスが崩れたり、体温を調節する機能が低下したりすることが原因で起こります。けいれんや意識障害、さらには命の危険を伴うこともあります。

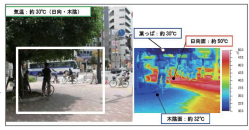


木は天然の日傘になれる？



日向と木陰の暑さ指数の違いのイメージ(環境省 2023)

地上における表面温度を計測した結果、街路樹の緑陰部分と日当たりのよいアスファルト面は、約 25℃の温度差があります。



交差点における樹木による木陰の創出事例(江東区木場 5 丁目付近 (環境省 2023))

●みどりの暑さ対策事例
「埼玉県熊谷市藤の parasol 事業」
暑くても信号待ちの間滞在しなればいけない交差点の歩道に、暑さ対策として、藤棚が設置されました。

「東京都千代田区 Marunouchi Street Park」
エリアのにぎわい創出を目的とした道路空間を活用した取組で、まちなかの暑さ対策を快適なまちづくりの要素の一つと位置づけています。
ここでは、道路上に天然芝を敷設することで、地表面温度が大幅に低下することが確認されています。

江戸川区のみどりのあゆみ

昭和 30 年代頃の江戸川区は、急激な都市化により多くのみどりが失われ、水路も生活排水で汚れるなど、環境悪化の一途をたどっていました。この状況を受けて「ゆたかな心 地にみどり」を合言葉に、昭和 45(1970)年から区民と行政が一体となった美化運動・緑化運動が始まりました。現在ではアダプト制度の登録数は公園、緑(街路樹)、水辺、まちかどの 4 部門を合わせて 10,679 人となりました(令和 6 年 4 月時点)。

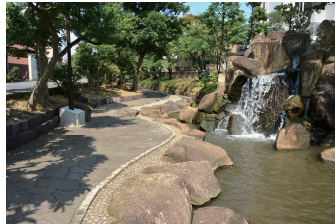


昭和 48 年 美化運動

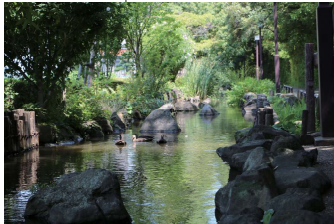


現在のボランティア活動

昭和 48(1973)年には全国初の親水公園である古川親水公園が完成しました。現在では豊富な水辺環境を活かし、5 つの親水公園と 18 路線の親水緑道が整備されています。



古川親水公園



一之江境川親水公園



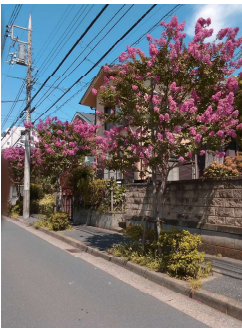
街路樹は、その多くが昭和 50 年代から 60 年代頃の下水道整備の推進に合わせて植えられました。現在の街路樹(高木)本数は約 3 万 3 千本となり、23 区内で最も多くなっています(令和 6 年 4 月時点、親水緑道を含まない)。



下水道整備 前

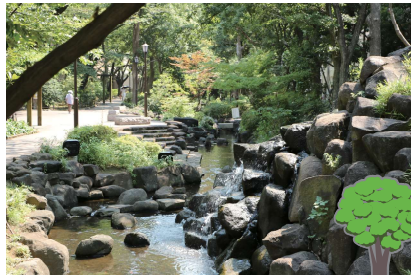


下水道整備 後



夏に見頃となるサルスベリの街路樹

中央地域のおすすめ路線



名称：小松川境川親水公園
最寄り駅：JR「新小岩駅」よりバスで約 8 分

区内で 2 番目にできた親水公園です。菅原橋から中川までの全長 3,930 メートルあり、全体は 5 つのゾーンに分かれ、滝に始まり、せせらぎ、水しぶき、飛び石、釣り橋に冒険船など変化に富んだ路線です。水遊びができない季節でも、ウォーキングをしたりアスレチックで遊んだり、四季を通じて楽しむことができます。



名称：一之江境川親水公園
最寄り駅：都営新宿線「船堀駅」または「一之江駅」より徒歩 10 分
多くの区民からの「自然に近い水辺を」という声に応じて整備されました。季節の移り変わりを楽しむとともに、豊かな自然を満喫できる親水公園です。魚や昆虫、水生植物が生息できるよう、新中川の水をそのまま流しています。また、小さな子ども達が夏季に水遊びを楽しめる広場が 3 ケ所あり、本流の流れを迂回させ水道水を循環利用しています。



名称：松島 1 丁目のイチョウ並木
最寄り駅：JR「新小岩」駅よりバスで約 10 分
樹種：イチョウ

小松川境川親水公園の近くにあるイチョウの並木で、近くの東小松川公園とも連なり、みどり豊かなまちなみを形成しています。晩秋には、閑静な住宅街の景観を鮮やかな黄葉が彩ります。

江戸川区に多い街路樹

クスノキ

科 名：クスノキ科
自然樹高：20m(高さ 55m、直径 8m に達する巨木もある)
特徴：葉を切ることで樟脳においがする。



ソメイヨシノ

科 名：バラ科
自然樹高：10 ～ 15m
特徴：観賞用として広く植栽されている。3 ～ 4 月、葉がでる前に、直径 4 ～ 4.5cm の淡紅色の花が 3 ～ 4 個散形状に咲く。



イチヨウ

科 名：イチョウ科
自然樹高：10 ～ 25m
特徴：秋には美しく黄葉する。種子は直径約 2.5cm の球形で 9 月頃成熟する。白くてかたい内果皮がいわゆるギンナンである。



ケヤキ

科 名：ニレ科
自然樹高：20 ～ 25m(高さ 50m、直径 5m に達する巨木もある)
特徴：日本の代表的な広葉樹のひとつ。寿命の長い樹木なので、天然記念物に指定されているものも多い。秋には、美しく鮮やかな黄色から橙色や赤色まで、様々な色に変化する。



ハナミズキ

科 名：ミズキ科
自然樹高：5 ～ 12m
特徴：4 ～ 5 月、黄緑色の小さな花が集まった球形の頭状花序をつくる。白色またはピンク色の花弁状の総苞片は広倒卵形で、先端はへこむ。秋に美しく紅葉する。



マデバシイ

科 名：フナ科
自然樹高：約 15m
特徴：6 月頃繖状のクリーム色の花を咲かせる。秋になると、長さ 2 ～ 3cm のどんぐりの実がなる。



ヤマモモ

科 名：ヤマモモ科
自然樹高：約 25m
特徴：4 月頃開花する。果実は直径 1 ～ 2cm の球形で突起が多く、初夏に赤く熟す。



タブノキ

科 名：クスノキ科
自然樹高：8 ～ 15m
特徴：5 ～ 6 月、枝先の円錐花序に淡黄緑色の小さな花をつける。果実は直径約 1cm の球形で花被が残り、7 ～ 8 月に黒紫色に熟す。



ヤマボウシ

科 名：ミズキ科
自然樹高：5 ～ 10m
特徴：6 ～ 7 月、小さな花が集まった球形の頭状花序をつくる。白い花弁のように見えるのは 4 個の総苞片。果実は 10 月頃に赤く熟す。



ユリノキ

科 名：モクレン科
自然樹高：10 ～ 25m
特徴：5 ～ 6 月に直径 5 ～ 6cm で帯黄緑色のチューリップに似た花が咲く。

